

平成30年度 S I P 第2期課題評価結果

課題名	ビックデータ・A I を活用したサイバー空間基盤技術
P D 名 (※敬称略)	安西 祐一郎

I. 総合評価結果

本課題は、S I P 第2期において、Society5.0 を実現するための中心的な役割を担うプログラムであり、工程管理・進捗管理を徹底して、早期の社会実装を目指すことを期待する。

他方で、サブテーマ間の連携の向上、スピード感を持った研究開発・社会実装を目指した体制の構築、ビックデータ・A I 分野における我が国競争力の強化に資する研究開発への重点化等に努めてもらいたい。

総合評価	B+
------	----

II. 主な指摘事項

【肯定的評価】

- 人とA I との高度な協調は世界で進められている一大テーマであり、世界に勝てる技術が出てくることを期待したい。新規性の高い研究開発テーマも認められる。
- サブテーマ「分野間データ連携基盤技術」については、データ連携基盤から創出される新たなサービスを含めるとその波及効果は大きいと考える。

【改善すべき点】

- 全体的に、独立性の高いサブテーマからなり、課題（プログラム）全体としてのシナジーをより明確にすべきである。
- 本課題（プログラム）の成果を社会実装するためにどのような課題があり、それをどう解決していくのか、また、社会実装された場合、我が国の国際競争力の向上につながるのかなどをより明確に示すべきである。
- 研究開発テーマの難易度も高く、多岐にわたることから、P D をしっかり支えるサブP D 等の体制整備を確実に行うべきである。
- 当該分野は、技術革新のスピードが速い分野である。本課題の研究開発体制は、大企業や大学が中心となっているが、もっとベンチャー企業の参画を促進させるべきではないか。「勝てる戦略」、「勝てるビジネスモデル」の構築を

しっかり検討することが望まれる。

- サブテーマ「ヒューマン・インタラクション基盤技術」については、そのアプリケーションを主として介護や学習にしているが、成果の社会実装を確実にするために、もっと広範なユーザーのニーズを十分に吸い上げたオープンイノベーション形式で研究開発を進めるべきではないか。
- サブテーマ「分野間データ連携基盤」については、分野間での連携は極めて難易度の高いテーマと考えるため、その工程管理・進捗管理を確実に行うべきである。
- サブテーマ「AI間連携基盤」については、この研究開発が成就した場合に、我が国の経済社会にどのようなインパクトをもたらすのかをもっと国民に分かり易く説明することが望まれる。具体的なニーズ及びユーザーについても必ずしも明確でない。
- なお、管理法人によるピアレビューの内容が極めて不十分であり、大いに改善すべきである。

(以上)